

令和3年度 延岡市立旭中学校 学校関係者評価書

段階評価	4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する
------	--

本年度の重点目標	学力の向上	心の教育の充実	健康・安全・体力の向上	夢・自信・誇りの育成
----------	-------	---------	-------------	------------

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
学 力 の 向 上	1 基礎・基本の徹底 諸調査による学力分析、4つのチェックポイントによる授業実践、指導内容の精選、学習評価の改善	○小テスト、定期テスト、ICT（キュービナ・ロイロノート）等を有効に活用し、基礎・基本の定着を図った。特に3年生は対外的な実力テスト等で優秀な成績を収めることができた。 ●忘れ物や家庭学習の指導など、更に学習基盤の整備・改善に注力する必要がある。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・成果が現れたところについては維持しつつ、整備・改善に努めてもらいたい。 ・令和3年度全国学力・学習状況調査において、本校は全国及び県・市の比を超えた評価は素晴らしく、今後も維持していただきたいと思う。 ・思考力・判断力・表現力の向上は重要なことである。表現力については型に囚われ過ぎないことも必要かと思う。 ・一部であるが、授業で教師と生徒の一体感に欠ける場面もあり、気になっていることでもある。 ・コロナ禍で生徒と短期間しか接することができなかったため、早く生き生きとした生徒に会って勉強したい気持ちで一杯です。 ・学習意欲に少し差があるように感じられますが、授業を受ける態度は全体的に良いように思います。 ・先生方へ感謝です。旭中の学力の高さは各方面から伺っています。応援していきます。
	2 思考力・判断力・表現力の育成（主体的・対話的で深い学習の推進） 教科横断的な教育課程編成、問題解決的学習・体験的学習の充実、総合的な学習の時間の充実	○思考力・判断力・表現力を高めることをテーマに校内研究を充実させ、相互授業参観週間を設定するなど、全職員で授業力向上に取り組んだ。 ○各教科でできるだけ説明する場面を多く設定し、発展的内容に取り組んだ。 ○延岡市キャリア教育支援センターとメンターの協力で総合的な学習の時間を充実させることができた。 ●ICTを効果的に活用して、表現力を一層育成していく必要がある。	3		
	3 指導力の向上 校内研修・相互授業参観、指導と評価の一体化推進	○相互授業参観や、指導と評価の一体化について研究を深め、授業改善を図ることができた。 ●評価方法を改善し、全職員で共通理解するとともに、単元テストの活用方法を工夫する必要がある。	3		
	4 学習基盤の整備 小中共同実践事項の徹底（チャイム黙想、返事等）語彙力・要約力・読解力の育成、補充指導の充実	○小中共同実践事項のチャイム黙想は、生徒による自主的な委員会活動を行うことで十分に定着している。 ●副教材の活用等で、語彙力や要約力の育成を一層意識して指導する必要がある。	3		
心 の 教 育 の 充 実	1 社会性の涵養 あいさつ・返事・ルール・マナー指導の徹底、体験学習の充実・儀式的・文化的行事の充実	○毎日の朝の会で唱和する取組を行ったり、部活動を通してあいさつや返事等の定着を図った。 ○コロナ禍への対応として、儀式的行事は放送等で行い、文化的行事は内容の工夫を行い、初期の目標を達成できた。 ●授業でのあいさつや返事は全体的に良くなっているが個人差がある。生徒会・委員会活動・部活動等の単位であいさつ運動に取り組む必要がある。 ●コロナのため体験活動を充実させることは難しかったが、目的を明確にした行事等の見直しも必要である。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの個人差は当然生じるものと考えられる。単位を超えた部分も視野に入れてもいいのでは。活動の自粛は致し方ないと思う。 ・おとなしい生徒もいますが、多くの生徒が元気よく気持ちの良いあいさつをしてくれると思います。 ・あいさつは家庭でのあいさつを実行すべきだと思います。保護者のあいさつが少なく感じます。部活生は他校に比べて元気とあいさつが弱い。 ・道徳教育には地道な対応で進めていただきたい。 ・教職員の方々のきめ細かな教育指導によって旭中の多くの生徒が素直に成長していると思います。 ・三者の関係の構築は良いことと思う。今後はそれを維持・継続・発展をお願いします。 ・コロナ禍で、家庭で過ごす時間が長くなったことより、ゲーム・スマホ・SNS等の利用時間が増えていると考えられ、危機管理に問題が生じないよう自己管理について、保護者との連携が必要と思う。 ・生徒には客観的に自分を見つめ良い所悪い所（足りない所）を自覚し自分で自分のことをしっかりおこなってほしい。 ・不登校生徒数の減少は特筆すべきものです。しかし、いじめ・不登校等の元凶はどこに潜んでいるかわからないので、今後の対応も宜しくお願ひしたい。 ・HPで、自転車に乗っていた女性が転倒して怪我をしていた所を介抱したという情報を観て、心が和みほっとした気持ちになりました。この種の情報は本校の誇りであると思います。
	2 自尊感情、人権意識の醸成 道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実	○担任と副担任で協力して道徳の授業を実践し、生徒の人権意識を高めた。また、学級通信でその内容や生徒の声を伝えた。 ●特別な支援が必要な生徒への対応において学級担任の負担が大きい。学年の支援体制を整備し、関係機関と連携を図る必要がある。	3		
	3 自己指導能力の育成 生徒指導の三機能による教育実践、生徒会活動の活性化、勤労生産奉仕的行事の充実、段階的生徒指導	○段階的生徒指導を意識し、全職員が共通理解のもと組織的に動き、生徒・保護者・教師でよりよい関係をつくることができた。 ●指導の流れは整理されつつあるが、まだ学年間の対応に微妙な差がある。段階的指導の適用場面について職員間の共通実践を徹底させる必要がある。 ●コロナ禍により学級活動を充実させることができなかったため自治活動を十分に行わせることができなかった。より主体的に委員会活動を行わせる必要がある。	3		
	4 人間関係の基盤づくり 学級・学年経営の充実、実効性のあるいじめ不登校対策委員会の実施、ボランティア活動の推進、旅行集団宿泊的行事の充実、教育相談の充実、SCの活用	○学級・学年経営の充実及び校内委員会を中心とした組織的ないじめ・不登校対策を行った結果、不登校生徒の数が減少した。 ○教育相談やアンケートを通して早めの対応ができた。スクールカウンセラーとの連携により、不登校生徒の対応等、保護者への支援ができた。 ○コロナ禍の中でも最大限の工夫を行い、校外ボランティア等に参加させることができた。 ●継続的な不登校への取組として、スクールカウンセラーとの連携によりチーム学校の構築を図る。 ●校内でもできるボランティア等を工夫していく。（昼休みや放課後の回収活動等）	3		

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
健康安全・体力の向上	1 体力や運動能力の向上 体育の授業・部活動・保健安全体育的行事の充実	○コロナ禍の中で、体育大会、Asahiトライアル、部活動等の実施方法を工夫し、体力の向上と健康への意識を高めた。 ○部活動では様々なトレーニング方法を工夫し、体力・技術の向上を図った。 ●部活動練習時間（90分）を確保するため、更に帰りの会等の方法を工夫・改善する必要がある。 ●2学期後半に風邪の生徒が多かった。手洗いやうがいの徹底等、感染症対策の更なる徹底が必要である。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を見据え、体力の向上と健康への意識は重要なものです。工夫・改善が必要なことはどんどん取り入れてもらいたい。 ・部活動が思うように出来ないまま大会に参加した結果、目標にしていた成績を出せず悔しい思いをした生徒もいたと思うが、そんな厳しい状況下でも今年も、「延岡地区中学総体表彰」で、女子バレー部・ソフトテニス部・水泳競技・陸上競技が受賞、また、「延岡市民体育祭表彰式」で、陸上競技・野球部が受賞する等、今年も文武両道の活躍であった。 ・部活動の効率化を図ってほしい。月・週・日と練習計画を作成して進めてほしい。 ・防災への備えは、人としての備えも必要なことなので充実の度合いを高めてほしい。 ・防災学習では、避難所設営を見学しましたが、各生徒が考えを出し合い、協力して取り組む姿が見られました。 ・防災教育はトップクラスの活動となっている。今後は地区の防災訓練等に積極的に参加をしてほしい（保護者も含め） ・小中連携を充実したものにしてください。
	2 望ましい生活習慣の醸成 立腰指導の徹底、保健指導の推進、性教育の推進	○性教育を年間計画に位置づけ、養護教諭と連携して実施することができた。 ○コロナ感染症対策の徹底により、生徒の衛生感覚を向上させることができた。 ●授業前と終わりの立腰はできているが姿勢チェック棒を活用するなどして更に徹底させる。	3		
	3 安全教育の推進 安全点検の実施と管理徹底、ドリームプランを活用した防災教育の充実、避難訓練の工夫、危機管理マニュアル・アクションプランの整備	○特に防災教育では、地域の方々・保護者の協力で年々充実している。 ○ドリームプランを活用し福島県いわき市の防災教育の実態を基にした校内研修や、防災テントの購入等を行った。 ●危機管理マニュアルの確認、見直しを適宜行う必要がある。	3		
	4 食育の推進 栄養教諭の活用、給食指導の充実、アレルギー対応	○副担任と協力し給食指導を行い、準備の時間を短縮することで、十分な食事時間を確保できた。 ○アレルギー除去食で個別面談を行い、適切に対応した。 ●小学校と連携し、食器を持って食べるマナー指導や、残菜指導を徹底させる必要がある。	3		
夢・自信・誇りの育成	1 キャリア教育の充実 あさひタイム（総合的な学習の時間）の充実、講師派遣事業・「子どもたちに伝えたいこと」事業の活用、キャリアパスポートの活用	○外部人材の活用や職業調べなどが、将来の目標を考えるきっかけとなった。 ○キャリア教育支援センターのコーディネーターと連携を図り、担当者会を計画的に開催し、各学年で連携した取組を行うことができた。 ○コロナ禍の中にも職場訪問学習など昨年度の内容を生かしたあさひタイムを実施することができた。 ●コロナ禍で対面での活動が少なく残念だった。 ●キャリアパスポートの有効活用方法について考えていく必要がある。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・これから成長していく過程で、社会人になるために最低限必要な要素（人とのつき合い方等）、部活動、自治会活動を通していろいろな体験など勉強してもらいたいと思う。 ・区長さん方への発信も希望します。 ・保護者からの苦情対応は大変なことだと思いますが、根気強くお願いします。 ・現在の社会情勢だからこそ学校・地域からの情報発信が大切だと思う。 ・TV・新聞・HPで、学校の取組や様子がわかり大変よかったと思う。（11月に訪問者が20万人を突破しました。今後も保護者や地域の方々への情報を発信して頂きたいと思います。） ・HPがたいへん見やすく、学校の近況等もよくわかります。 ・課題解決に向けて着実に歩を進めていって下さい。 ・SDGsについて、講師を招き講習会を実施していますが、学校運営として具体的に進めている事項があれば、その内容についてお聞かせ下さい。 ・学校運営は、コロナ禍で、更なる厳しい運営を強いられると予想されますが、現在まで築き上げてきた成果を停滞することなく継承され、更なる発展を願っております。 ・令和4年入学してくる1年生のため、教職員・生徒で明るく素晴らしい旭中学校としてむかえられるよう願っています。できていると思います。 ・部活の90分は理解できますが、私学との差が心配。外部指導者の検討を進めてほしい。 ・職員の働き方改革が言われ始めて久しいが、目標に近づけられた努力は素晴らしい。 ・一定の成果を出していることに評価いたします。よく「教職員は多忙だ」と耳にします。更なる効果を上げるためにも教職員の公平かつ均等な校務分掌になることを期待し、更なる成果を出して頂きたいと思います。
	2 保護者・地域との連携充実 情報発信（HP）、地域人材の活用（はげまし隊、社会人メンター・講師）、伝統の継承、学校支援コーディネーターの機能充実、CSによる学校運営、PTA・地域諸団体等との連携、保護者との相談体制整備	○学級通信やホームページ、新聞掲載等を通して、旭中の教育活動を保護者や地域に発信することができた。また、欠席者への保護者連絡もホームページの活用によりこまめにできた。 ○コロナ禍ではあったが、可能な限り、はげまし隊、社会人メンター、外部講師などに支援いただき、充実した教育活動を進めることができた。 ●保護者からの苦情に対してはすぐに対応し、通信を通して意思疎通を図ることが必要である。 ●部活動の地域移行を見据えた連携を図る必要がある。	4		
	3 教職員評価・学校評価の活用 PDCAサイクルによる学校の課題解決、学校組織力の強化、諸教育活動の目的の明確化と成果の検証	○個別の教科指導や校務の仕事などでもPDCAサイクルを意識した課題解決が図られた。 ○目標設定ミーティング、中間ミーティング、職員フィードバックを効果的に行い、組織と個人目標を統合した結果、学校経営ビジョンの具現化がすすんだ。 ○昨年度の学校評価を基にした4つの取組（1. 校長のドリームプランサポート事業の活用～「あさひタイム」を核としたキャリア教育の充実、2. HPによる情報発信の更なる充実～保護者・地域との絆づくり、生徒の自信や誇りの育成、3. 働き方改革・コンプライアンスの推進～コロナ禍中の取組の成果還元、4. 生徒の自己指導能力の育成～生徒指導の機能を生かした学級・学年経営の充実）を具現化を推進した。 ○上記2つのPDCA評価活動を通して学校の課題解決を進めることができた。 ●行事毎の反省を学期反省時に記録し、次年度の計画に活かす。	4		
	4 働き方改革・校内コンプライアンスの推進 校内推進委員会の設置、学年経営の充実、校務支援システムの効果的活用と研修の実施、会議の効率化、校務分掌の改善、部活動改革、報告・連絡・相談の徹底、風通しのよい職場環境づくり	○登校時間の設定、部活動の時間短縮、校時程の見直し等を通して働き方改革を推進した結果、月80時間超の職員をゼロにし、平均45時間以内の目標に近づけることができた。 ●学担、部顧問、生徒会担当等校務分掌組織上の仕事量、役割分担の見直し等、更なる働き方改革の推進、更なる組織体制の見直しなども必要である。	4		
<p>[次年度の方向性についての校長所見] ※ 関係者評価書を、令和4年度の学校経営ビジョンに具体的に反映させていく。</p> <p>・特に以下の項目については重点的に取り組む。</p> <p>(1) 教育の情報化の推進 (2) 生徒会活動の活性化を通じた社会性の涵養 (3) 地域との連携・協働の一層の充実 (4) 「小・中連携した宮崎の未来を築くキャリア教育研究推進事業」の推進</p>					